



[きゅうながやまたけしろうてい]

旧永山武四郎邸

私邸として建築

この建物は、明治10年代前半、屯田事務局長時代の永山武四郎が私邸として建築したものである。

明治44（1911）年8月、同邸の土地・建物（みつひし）は三菱合資会社（みつし かいしや）に買収され、同社の北海道における炭鉱事業調査本部として使用された。

大正2（1913）年4月、敷地のうち313坪余を道路用地として札幌区に寄付した。

昭和12（1937）年頃、建物の北側部分を解体して、木造のクラブ（旧三菱鉱業寮（57ページ））を建築し、旧永山邸部分は貴賓室として使用した。

昭和60（1985）年9月、市街地再開発事業の一環として、当時の所有者三菱鉱業セメント株式会社から札幌市が譲り受け、平成元（1989）年より一般公開を開始した。

清華亭や豊平館に類似

建物は、全体として重厚かつ簡素な意匠（いしょう）でまとめられ、細部も開拓使が手がけた和洋住宅様式の特色をよく伝えている。

明治前半期の本道の上流住宅建築の好例であり、特に洋風応接室と書院座敷（しょういんざしき）を直接に連絡する方法は、日本近代住宅史の展開を考えるうえで重要である。

この建物は、洋風の玄関・ホール・応接室および和室等からなり、玄関棟の妻には十字形飾りを付けている。母屋の小屋組は、洋式のキングポスト・トラス（すみばしらのかたちつき）した（し）みいた（しやういんざしき）ばり。

応接室内部の壁は大壁で、天井とともにしっくい仕上げ、天井の中心飾りなどは、清華亭（30ページ）や豊平館（6ページ）によく似ている。

平屋の従棟が接続

和室と応接室の開口部には、洋風の引き込み板戸を設け、和室側の額縁は、清華亭のものと似た洋風線形で飾っている。8畳間の天井板は、道産の各種の雑木を集めて寄せ張りとしている。

札幌繁栄図録によると、敷地は木製の塀で囲まれ、北3条通から側溝に木製の橋を2本かけ渡してある。西側正面には銃を持った屯田兵が見える。

北側および東側には、現在は存在しない部分があり、かつては、かなり大きい平屋の従棟が接続していたことを示している。

永山武四郎

永山武四郎は、天保8(1837)年4月24日、薩摩国鹿児島郡西田村(現鹿児島市薬師2丁目7番)で出生した。

明治5(1872)年、開拓使に出仕、屯田兵設置に尽力し、同11(1878)年屯田事務局長となった。

明治21(1888)年、第2代北海道庁長官、同29(1896)年に第7師団長となった。この間、本道の開拓、産業の発展、とくに炭鉱の開発、鉄道の延長等に努めた。

明治37(1904)年、東京にて死去したが遺言により、旧豊平墓地へ埋葬された。なお、昭和57(1982)年、里塚霊園に改葬された。

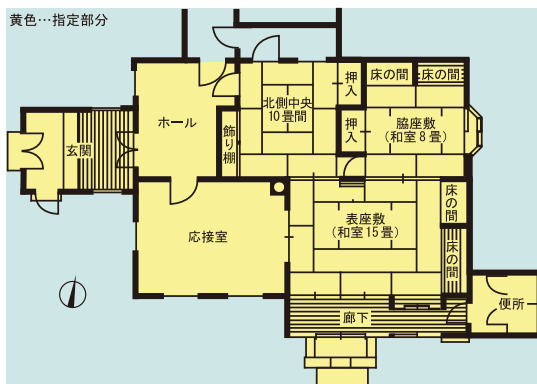
保存活用工事

旧永山武四郎邸は、建物各所で腐朽が進んだため、平成17(2005)年9月から平成18(2006)年3月にかけて大規模な保存改修工事を実施し、後年時に改造した部分を復元し、建築当初の姿に戻した。

また、附設された旧三菱鉱業寮(57ページ)について耐震補強を含む保存活用工事を平成28(2016)年11月から平成30(2018)年にかけて実施し、貴重な歴史的資産として保存するとともに、新たな歴史観光文化スポットとして積極的に活用していくために整備された。平成30(2018)年6月に両建物が一体の施設としてリニューアルオープンした。



洋風応接室と書院座敷



概要

- 木造平屋建 亜鉛鉄板葺
- 外壁 下見板張り
- 建築面積 136.06 m²

● 建築年代: 明治 10 年代前半

● 指定年月日: 昭和 62 (1987) 年 11 月 27 日

● 所在地: 札幌市中央区北 2 条東 6 丁目 2 番地

● お問い合わせ: 旧永山武四郎邸管理室 ☎ 232-0450

● 観覧形態: 内部観覧可

● 観覧時間: 9 時 00 分～ 22 時 00 分

● 休館日: 第2水曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

● 観覧料: 無料

● アクセス

地下鉄東西線「バスセンター前」10番出口より約680m
JRバス・中央バス「サッポロファクトリー」

